

令和3年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	看護学群
学 群 長 名	高橋和子

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	1・2年生の必修の専門基礎科目で、授業の到達目標に対する到達度が全学平均より低い科目が多い(3.6ポイント以上、低い科目が7科目中5科目)。
①	理 由	専門基礎科目は、評価項目や自由記載でも、授業に内容の難しさ、量の多さなどに関する記載が見られるが、授業外の学習時間は、他の科目よりも学習時間が少ない科目が多い。確実な知識を必要とする科目であるが、主体的な自己学習(予習・復習)につながっていない。
②	課 題	わからないことがあっても、直接、教員に質問する学生は少ない状況がある。レスポンスカードへの記載をされていてわからないままでも、そのままにしている学生も見られる。
②	理 由	学生の到達度の評価が低かった科目では、成績も低めとなっている傾向がある。理解が不足している場合に、担当教員に質問する等の理解をするための学習行動が不足していることが窺われる。
③	課 題	Learning Management Systemを用いた授業のレスポンス登録が、適切に行われていないことへの指摘があり、登録方法の変更対応が行われた。
③	理 由	授業への参加態度として、レスポンス登録等、周知された適切な対応を守れていない学生がいることが窺われ、学修の改善が求められる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	●専門基礎科目の主体的な自己学習の強化 ・高校での生物、化学の学習の不足や理解度が低いことが、専門基礎科目の自主的な学習の妨げになっていることが窺われる。授業回毎のミニテストの活用や、継続的な学習に繋げる課題設定など、自己学習に取り組むことの習慣化を図る。 ・自己学習しやすい教材や、学習環境を整備する(デジタル教材の活用、スキルスラボの整備等)。
②	●教員との双方向学習の強化(わからないことを他者に質問・確認できる学生の育成) ・引き続き、レスポンスカード等の記載に対する授業時のコメントや、声掛けによるフィードバックを行う。 ・学生同士のグループ学習の機会を活用し、お互いに質問し合う体験ができる学習環境を設定する。
③	●お互いに学習意欲を高め合うクラスづくり ・学生間での協働作業の課題を設定するなど、グループへの貢献が求められる学習課題を活用する。 ・授業参加での不適切な態度を未然に防ぐ、教員および学生間での声掛けを強化する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・Slido(オーディエンス・レスポンス・システムの名称)を用いた双方向型の講義形式。
- ・劇づくりを通したグループワーク。
- ・事後課題の内容設定とフィードバックの返却。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・教授会や教員会議、専門科目代表者会議で、学生の学習状況および課題等に関する情報を共有する。
- ・看護学群のFD等を通して、学生の主体的な学習につながる支援方法を検討する。
- ・DX事業を通した新たな教材開発等により、学生の主体的な学習を促進する、学習環境の整備を図る。